

学校法人海星女子学院 神戸海星女子学院中学校 3年
加藤 綾子

「懐かしい。そういえばこんなももあったなあ。」

今年の夏休みのある日、私は長い間しまっていて見ていなかった、小さい頃の落書き帳などを見ていた。すると、それらの中から、見覚えのない、「にゅうがくおめでとう」と書かれた紙が出てきた。何だろう、と思って取り出して裏を向けてみると、「保護者の皆様へ」から始まる十二行の文章が載っていた。ざっと目を通してみると、どうやらその紙は小学校一年生として初めて教科書を貰うときの、教科書を包むための紙だったらしい、ということがわかった。

私は、その包み紙が気になって、改めて文章をよく読んでみた。すると、教科書が無償で配布されているということ、そして、教科書の無償給与制度について、『次代を担う子供たちに対し、我が国の繁栄と福祉に貢献してほしいという国民全体の願いを込めて、その負担によって実施されております。』と書いてあった。有難いことだ、と感じた。実際に私は教科書を使って多くのことを学んできた。毎年無料で配られる教科書を当たり前のように受け取ってきたが、教科書を作る際お金がかからなかったはずがなく、それは税金で賄われているということなのだ。そして、『国民全体の願いを込めて』という言葉を見て、見ず知らずの一見無関係に思える人たちが納めた税金も使われているということを見ると、感謝の気持ちを抱くとともにこれも助け合いだったのか、と思った。私たちは税金を通してつながっていて、助け合っているのだ。

税金が使われているのは教科書だけでない。最近は新型コロナ対策にも税金が使われている。また、私が住んでいる市には、「こども医療費助成制度」がある。これは、十八歳までのこどもの医療費が無料になるという制度だ。この制度が成り立つのも、税金のお陰である。

「道路にも、信号にも、公園にも、税金が使われています。税金は大切です。」

今まで、そう教えられてきた。しかし、正直実感が湧いていなかったし、税金に対しては悪いイメージの方が大きかった。しかし、私は毎日税金のお世話になっている。日本の社会を支えているものの一つは税金である。そして、税金を納めることは助け合いでもある。今回教科書の包み紙の文章を読み、税金について深く考えたことでよいイメージを持つようになった。感じたことを覚えておき、将来は意味をよく理解して税金を納められるようになりたいと思う。

私の小一の国語の教科書に誰が納めた税金が使われているかはわからないし、逆に、私の両親が納めた税金がどこに使われているかもわかる訳ではない。しかし、私たちが納税を通して力を貸し合い、今の社会を作っていることは事実だ。そう考えると、税金を納めることに少しは楽しさを覚えられないだろうか。